

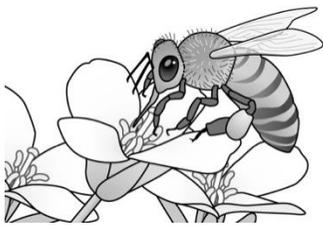
4 花から実へ

5年 組 名前 ()

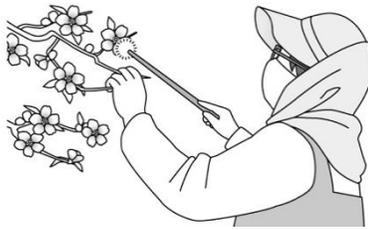
アサガオの花やヘチマのめばなは、さき終わってからしばらくすると、めしべのものが大きくなって実になります。しかし、アサガオやヘチマをよく見ると、めしべのものが実になったものと、実にならなかったものがあります。

【見つけよう】

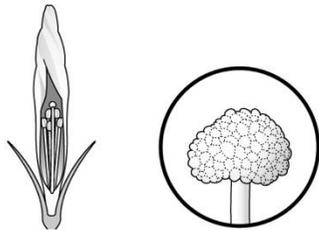
めしべのものが実になったりならなかったりするわけを考えましょう。



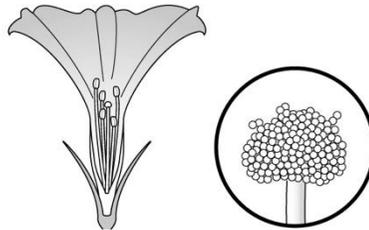
花に、花粉をつけた虫がやってくる。



リンゴの花に、人がリンゴの花粉をつけることがある。



花がさく前のめしべには、花粉がついていない。



花がさいたあとのめしべには、花粉がついていることが多い。

おしべの花粉にも、何か役割があるのかな？



めしべのものが実になるには、花粉が必要なのかもしれない。

花粉が何か大切な役割をしていると思う。

【はてな？】

問題 めしべのものが実になるためには、めしべの先に花粉がつくことが必要なのだろうか。

4 花から実へ 実験1 5年 組 名前 ()

【はてな?】
問題 めしべのもとが実になるためには、めしべの先に花粉がつくことが必要なのだろうか。

【予想を書こう】 めしべのもとが実になるために必要なことについて予想しましょう。
実になるためには、めしべの先に花粉がつくことが必要だと思う。

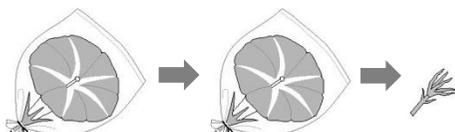
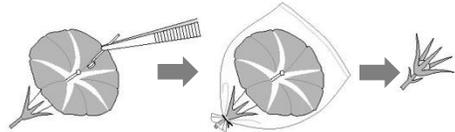
(理由)
アサガオの花がさくと、めしべに花粉がついているから。

【実験の方法を確認しよう】 めしべのもとが実になるために必要なことについて、自分の予想を確認める方法を確認しましょう。

- 〈方法〉
- 実験をする前に、さきそうなつぼみを2つ選んで、カッターでたてに切れ目を入れ、花がさく前にピンセットでおしべを全て取りのぞいておく。
 - ①おしべを全て取りのぞいた2つのつぼみに、花が咲いたときに、花粉がつかないようにするために、ふくろをかぶせて、口をひもでしぼる。
 - ②花がさいたら、一方だけふくろを取り外して、めしべの先にほかの花のおしべの花粉をつけ、再びふくろをかぶせる。
 - ③花粉をつけた花とつけない花が区別できるように、名札などをつける。
 - ④花がしぼんだら、両方ともふくろを取り外して、実のでき方を調べる。



おしべの花粉をつける。



そのままにしておく。

見通しをもとう (例：～になるはず、など)
花粉をつける花は実ができて、花粉をつけない花は実ができないはず。

【実験1】 めしべの先に花粉をつける花とつけない花で、実のでき方を調べよう。

【結果を書こう】
花粉をつけた花 実ができた。
花粉をつけなかった花 実ができなかった。

【結果から考えられることを書こう】
ふり返ろう (例：見通しのとおり、見通しとちがって、など)

見通しのとおり、花粉をつけたほうだけが実になったので、予想どおり、実になるためには、めしべの先に花粉がつくことが必要だといえそうだ。

【結果からわかった問題の答えを書こう】
結ろん めしべのもとが実になるためには、めしべの先に花粉がつくことが必要である。

めしべの先におしべの花粉がつくことを、受粉といいます。

【【広がる学び】】
多くの植物では、こん虫や鳥などが花粉を運んだり、風で花粉が運ばれたりして、受粉が行われます。
主にこん虫が花粉を運ぶ植物：へチマ、ゲンゲ（レンゲソウ）など
主に鳥が花粉を運ぶ植物：サザンカ、ツバキなど
主に風で花粉が運ばれる植物：トウモロコシ、ムギなど



ゲンゲとミツバチ